



東中だより

夢を追え、自らを高めよ
—学べ・磨け・輝け—

7月号

さいたま市立東浦和中学校

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 1207-1

☎ 048-873-4141

令和4年6月30日 発行

素晴らしい生徒たち、素晴らしい先生たち

校長 遠藤 浩之

6月27日(月)、気象台から関東甲信地方、東海地方、九州南部の梅雨明けが発表されました。各地とも平年より早い梅雨明けで、梅雨の期間は史上最短を更新しています。そして、連日の猛暑。この原稿を書いている最中も、「熱中症警戒アラートが発表され、暑さ指数が『嚴重警戒』を超え、『危険』の域に入っているため、放課後の運動や運動部活動、屋外での活動を行わないこと」とする指示が、さいたま市教育委員会から出されたところでした。また、新型コロナウイルス感染拡大は、ある程度収束しているように見られますが、まだ感染者数がゼロにはなるわけではなく、心配な状況は続いています。心配要素を挙げればきりがありません。しかし、このような中でもできることを、学校として模索し続けてきているところでした。

過日行われた体育祭。暑さが心配されていましたが、ちょうどよい曇り空で、気温も上がらず、とてもよいコンディションの下で開催されました。体育祭は競技です。ですから、勝敗は決まります。でも、勝敗という結果の裏側で、多くの学びがあったことは、容易に想像できます。ここで、学年だよりにあった各学年主任の言葉を紹介します。

「2・3年生には及ばないものの、みなさんのレースぶり、仕事ぶりを見て、来年、再来年のさらなる活躍が楽しみになりました。」(1年主任)

「勝利を手に入れる喜び、仲間とわかちあえるすばらしさ、互いをたたえ合う思いやり。そういった雰囲気チームグリーンから感じることができました。」

(2年主任)

『全部楽しかった』『今までで一番回数跳べたんですよ』『山越え谷超えで…』『バランスリレーで…』と上手くいっただけでも上手いかなかったことも、多くの生徒がとても楽しそうに話してくれました。これが本来あるべき姿の体育祭だな、これが学校行事のもつ意味だなと数年ぶりに充実した気持ちがよみがえってきました。」(3年主任)

生徒たちのことを一番近くで見ていた学年主任の言葉を読むと、今回の体育祭は、改めて本校生徒たちの素晴らしい面を目の当たりにすることができた大切な機会だったことを実感します。それと同時に、手前味噌になってしまうかもしれませんが、そういった生徒たちの良い面をしっかりと評価してくれる本校職員の姿勢に、私は校長として感謝の気持ちでいっぱいです。また、この体育祭も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、複数箇所のプログラム変更を行うことで、なんとか体育祭を例年に近い形で実施し、生徒たちの大切な思い出にしたいという思いで、ここまでの形にしてくれた保健体育科教員たちの隠れた努力があってこそのものであることも、忘れてはなりません。

今年本校の目指す学校像のひとつとして

「生徒と教師の笑顔があふれる学校」

を掲げています。今の東中は、その方向に向かって着実に進んでいます。保護者、地域の皆様、これからも本校教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。